

## E-2 潜水員の心理的適性に関する研究

海上自衛隊横須賀地区病院潜水医学実験部

村川 弘一

田中 義郎

潜水員の適性に関する研究は、従来 SEALAB や TEKTITE に見られるように、飽和潜水のアクアノートに関するものが多く、しかも主として社会学的立場のものであった。本報告では、現在最も多く行なわれている短時間潜水の潜水員の心理的適性について考察することとした。

適性とは、特定の訓練や経験を重ねる前に徴候として潜在的に存在している状態や傾向と定義されるが、これを見出すには、2つのことが考えられる。第1は、理想像を描き出して、これとの適合を考えることであり、第2は、完成した熟練者の持つ特性を抽出して適性に結びつけることである。本報告では、実験に先立ち、潜水指揮官の討議によって潜水員の理想像を描き出そうとしたが、その結果は、すぐれた知的能力と体力があげられ、性格的には協調性、柔軟性等、特に潜水員のみにもみられる理想的なものは見出せなかった。そこで第2の方法によって適性を見出すことに目的をおいた。

目的：標準的な潜水員の教育を終って、現在潜水員として勤務している職業潜水員に、既存の心理テストを実施して、心理的特性を抽出し、潜水員の心理的適性を求める。

方法：1) 被験者、横須賀地区在勤の潜水員49名で、その年令、経験年数は表1に示すとおりである。学歴は、中卒17名(34.6%)、高卒31名(63.3%)、大卒1名(2%)である。2) 使用した心理テスト a. 能力検査：労働省一般職業適性検査、 b. 性格検査：YG性格検査、CAS性格検査、MPI性格検査、PFスタディ。c. 作業検査：内田クレペリン精神検査。

手続：上記のテスト結果が、すぐれた潜水員と、劣った潜水員との間で差があるかどうかを検定することを意図したが、潜水技術は複雑多岐にわたり、客観的評価基準を得ることが困難なので、本報告では、被験者の潜水員としての個人評定を基準としてテスト結果を評価することとした。

個人評定は、あらかじめ評定基礎を統一した6人の潜水指揮官によるクロスチェック方式をとり、評定結果の客観化をはかった。評定項目は、潜水に関する知識及び技能、潜水員としての性格的適応性、生活態度に現れた潜水員としての自覚、総合評定の5項目である。

テスト結果の評価は、上記の個人評定の結果から、上下約25%、各13名を抽出して上位群及び下位群とし、各部を構成する被験者の、各テストの下位因子の得点の有意差検定を行なった。

結果：1) 能力検査 一般職業検査の7つの下位因子は、いずれも上下2群間に有意差は認められなかった。(表2) 2) 性格検査。4つの性格検査は、27の下位因子を持つが、YGのS



Table-2 t-test for Personal Valuation

Group Factors	H (N=13)		L (N=13)		t
	M	S D	M	S D	
G	87.77	17.55	84.08	17.83	0.51
V	89.08	16.11	86.92	15.88	0.33
N	83.62	14.58	85.77	18.63	0.31
Q	76.92	14.24	82.38	16.08	0.88
S	89.77	18.71	81.92	14.13	1.16
P	75.62	16.28	76.54	11.64	0.16
K	79.31	13.73	86.85	15.42	1.26

df = 24 P < .05 t = 2.06

Table-3 X<sup>2</sup>-value for personal Valuation

Y   G	D	0.295	Y   G	T	0.216	M P I  P  F	E	6.117*
	C	0.216		A	2.521		N	0.002
	I	0.790		S	3.961*		G C R	3.127
	N	0.216	C A S	Q <sub>3</sub> ( <sup>-</sup> )	0.001		E	2.521
	O	0.781		C( <sup>-</sup> )	0.002		L	2.461
	Co	1.625		L	0.002		M	0.210
	Ag	0.619		O	0.295		O - D	0.090
	G	0.000		Q <sub>4</sub>	0.216		E - D	0.001
	R	1.950		T	0.002		N - P	0.003

N = 26 df = 1 X<sub>.01</sub><sup>2</sup>(1) = 6.635 X<sub>.05</sub><sup>2</sup>(1) = 3.841 (1) = 3.841

Table-4 t-test for Kraepelin test volume

H (N=13)		L (N=13)		t
M	S D	M	S D	
860.08	193.97	914.15	253.37	0.59

df = 24 P < .05 t = 2.06

《質問》 埼玉医科大学 梨本一郎

組織化された中での潜水員以外の、例えば漁民あるいは港湾土木従事者についてはいかがか。

《答》 横須賀地区病院 村川弘一

本質的に両者は異ならないと考えるが、commercial diver の職業による二次的性格をさぐっていく事が必要かと考える。